

# 「信頼され、尊敬される大学」を 目指して



小林 淳一

(公立大学法人秋田県立大学 理事長/学長)

## 1. 秋田県立大学の方針

秋田県立大学は、1999年4月1日に開学し、今年で20周年を迎えた。本学の基本理念は二つからなり、一つは、「21世紀を担う次代の人材育成」であり、もう一つは、「開かれた大学として、秋田県の持続的発展に貢献」である。

「21世紀を担う次代の人材育成」については、Society 5.0といわれる社会、つまりあらゆる機器がインターネットとつながり、それによって新しいソーシャル・イノベーションが生まれる社会への対応、そして、全世界での共通な課題である持続可能な社会（SDGs）の実現などに対して、グローバルな視点で自ら考え行動ができる人材育成を目指している。このような教育で最も大切なことは、様々な出来事の中から変化に気づき、将来起こりうる課題を主体的に見つける能力を磨くことである。本学は、教員一人当たりの学生数が約8人と全国トップレベルの少人数教育が実施され、教員指導の下、

課題に対して学生自らが考え実行する学生自主研究制度がいきわたり、学生が主体的に学ぶ教育システムが充実している。この教育は本学の大きな特徴で、その実績は就職活動に表れており、ここ2年間は、就職を希望する学生の就職率が100%を達成している。

一方、もう一つの理念である「開かれた大学として、秋田県の持続的発展に貢献」については、秋田県での最大の課題である人口減少問題に焦点を当て、県内で活躍する人材育成と地域を支えるための産業振興にターゲットを置いている。そして本学の設置者である秋田県との約束事として、第3期中期計画を立て、昨年スタートさせた。その中では、県内出身学生の入学率割合や、県内の企業に就職する学生割合について数値目標を立て、より多くの若者が県内に残るための施策を打っている。また、秋田県の農業にメスを入れ、新しい「スマート農業」を実現するためのビッグプロジェクトを立ち上げた。



秋田県立大学 各キャンパス（本荘、秋田、大湯）

「スマート農業」とは、Society 5.0の農業版である。農業生産、流通に関するあらゆるものをデジタル化し、農業を仮想空間上で再現し、実空間と仮想空間をインタラクティブに繋ぎながら、蓄積したビッグデータからAI等を活用し最適な農業生産、流通を行う全く新しい農業である。具体的なターゲットとしては、世界で戦える大規模法人農業、担い手を確保した特徴ある小規模農業、年間を通して稼げる周年農業、さらには市場ニーズにタイムリーに応えるアグリビジネスモデル等である。本学は、工学系と農学系の2学部であるので、この強みを生かすことができると考えている。本学は、地元の様々なニーズや課題に対して、個々に対応することによって、地域に貢献してきたが、上記課題のように大学自らが地域を大きく支える課題を抽出し、大学のトップポリシーとして地域に貢献していくやり方を今後増やすべきだと考えている。そうすることによって、秋田県立大学が、私が目指す「信頼され、尊敬される大学」により近づいていくものと確信している。

## 2. 企業で経験したこと

筆者は、企業で30年間勤め、縁あってこの大学に赴任した。企業では研究開発部門に所属し、事業部から依頼された研究を行い、また将来必要となる技術開発を自ら提案し行った。つまり企業にとって必要な技術を他社に先駆けて開発し、ビジネスを有利に進めることに寄与した。しかし、高度成長時代から低成長時代に突入すると、研究開発部門のあり方が問われ、従来のバックエンドから事業部を支えるやり方を改め、お客様のフロントに出て行き、直接お客様の課題を見つけビジネスに結びつける立ち位置に変

えていく必要があった。つまり研究開発部門がソリューションビジネスの最前線へと研究者の意識改革を行うと共に実行するための仕事の仕組みを構築しなければならなかった。ここには、シーズ先行からニーズ先行の考え方への切り替えが必要であるが、これはそう簡単なことではなく、多くの研究者が戸惑った。また、この場合、企業として持つべきコア技術をどう育てていくのかという課題も突きつけられた。筆者はこのまっただ中で仕事をしてきた。

## 3. 大学における教育

今から12年前、本学の本荘キャンパスにあるシステム科学技術学部の教授として赴任した。教育という点では、企業の中で若いエンジニアにたくさん教育を行い経験はあったが、学生に授業をするのは初めてである。しかも得意な分野の授業だけではなく、あまり知識が豊富でない授業も行わなければならない。そのため1年目は、かなり科目内容について勉強し、走りながら授業を行った。学生に講義をしながらいろいろな事を学んだ。企業で教える事と大学で教える事の大きな違いは何かを一言でまとめると以下の通りである。企業では受講者にとって必要な事を正確に教えるだけで良かった。受講者は必要なものを自分の責任で学ぶだけであり、教える側には受講者の態度にとやかく言う必要はないのである。しかし、大学は全く違う。学生は様々であり、しっかり学ぶ学生はたくさんいるが、そうでない学生もいる。つまり、授業に興味を持たないのである。その場合興味を持てるように、教える内容だけではなく、その背景、あるいは将来どう役立つのかまで丁寧に話さなければならない。またレベルも様々である

ので、どこを基準に話をすべきか、大変重要な事である。また、途中で飽きないように、学生の様子を見ながら気分を変える事を行う必要もある。しかし、この経験は、副学長時代の教育担当、学長としての大学運営に大いに役立った。

#### 4. 目指すべき大学像

本学は、大学ランキングでも高い位置をキープしている。それは、教育、研究、地域貢献に全員で努力し実績を上げてきたからである。従って筆者は、この流れを維持することを基本とするが、少し別な視点で大学運営を行っている。それは「信頼され、尊敬される大学」を目指すというものである。20年間教育、研究、地域貢献にかなりの実績を上げてきた。しかし、まだそれぞれが点であり、線や面での繋がりにまでは至っていない。ここを改善することにより、大学として大きなメッセージが発信できる。そしてさらに真に期待される大きな成果を上げることにより、本学のプレゼンスが定着し、「信頼され、尊敬される大学」が実現できるものと考えているからである。

かつての大学は、大学の自治と言う名の下に世間とあまり関わらない存在であったし、世間

もそれで良しとしてきた。しかし世界経済がグローバル化するに従って、世界をリードできる人材が求められ、また人口減少により、国力が落ちている状況をなんとか脱却するために、世間は大学への期待を大きく持つようになってきた。その結果、大学のあるべき姿が変わってきたのである。今までのように勝手に自分の研究を中心に行えば良いというものではなくなった。世の中が求めるものは何か、あるいは世界で戦える人材をどう作っていけば良いのか、それらのニーズに応える大学運営が求められている。そのためには、大学で働く教職員の意識改革を徹底しなければならず、学長のリーダーシップに大きく依存する事になる。また、文部科学省からは大学運営の質保証を強く求められてきている。つまり、目標が達成できる仕組みが出来ているかを評価しようとしている。

元々大学は、良識ある教員の実績の元にボトムアップ的に成り立っていたが、世の中のニーズに素早く適切に応えるためには、トップダウン的な運営形態の導入が必要である。私が考える「信頼され、尊敬される大学」を目指すという事は、大きな意識改革を教職員で共有する言葉でもある。

### 学 校 概 要

1 学 校 名	公立大学法人秋田県立大学	9 基 本 理 念	21世紀を担う次代の人材育成 開かれた大学として、秋田県の 持続的発展に貢献
2 代 表 者 名	理事長／学長 小林 淳一	10 キャンパス	・本荘キャンパス (システム科学技術学部) 〒015-0055 由利本荘市土谷字海老ノ口84-4 ・大潟キャンパス (生物資源科学部アグリビジネス学科3・4年次) 〒010-0444 南秋田郡大潟村字南2-2 ・木材高度加工研究所 〒016-0876 能代市海詠坂11-1
3 所 在 地	秋田キャンパス (大学本部・生物資源科学部) 〒010-0195 秋田市下新城中野字街道端西241-438		
4 T E L	018-872-1500		
5 F A X	018-872-1670		
6 U R L	<a href="http://www.akita-pu.ac.jp">http://www.akita-pu.ac.jp</a>		
7 教 職 員 数	専任教員214名、職員244名		
8 学 生 数	1,827人(2019年5月1日現在)		